



箕輪進修高校 進路指導室

2012. 6. 14

3, 4年生用 No.20



## 自分で考える訓練を

工業科の実習中に、「次はどうしたらいいですか」と頻繁に聞いてくる生徒がいます。質問をすることは大切なことですが、自分で考えればそんなに頻繁に聞かなくても分かりそうなのに、いつも指示をしてもらわないと動けないのです。

数年前に工業科の生徒がある企業に就職しましたが、図面を渡されそれに基づき加工するように指示されたのですが、その段取りを自分でどうしたらよいか考えることが出来ず、会社から「使えないから正規採用はできない」と夏前に解雇を通告された生徒がいました。

いつも**周囲から指示されないと自分がどう動いて良いか分からないようでは世の中に出て使い物になりません**。周囲を頼ろうとせず、自分でどうすることがよいのかを考えようとすれば、自ずと見えてくるものがあるはずです。皆さんは**いつまでも親や周囲に頼って生きているわけにはいかない**のです。**現実の社会の多くのことは自分で考えないと先に進めない**ことの方が多いのです。聞くことは楽なことですし時には人に聞くことも大切ですが、まず自分で考えるという訓練をもっと重ねていかないと社会に出た時困るのは自分自身です。日頃から少しずつ訓練すれば人間何とかなるものです。



## 忍耐力を養う

先日強歩大会が行われました。こんな面倒なことをどうしてやるのかと思う人もあるでしょう。人生の中ではつらいこと、思い通りに行かないことが少なくありません。だからといってそこからすぐに逃げればよいわけではありません。つらくてもじっと我慢をし耐えることも必要です。

最近の若者はこうした忍耐力に欠けがちだとも言われます。会社でつらいことがあるとすぐ辞めてしまうというのもその現れです。つらいことから逃げれば、その時は楽になったように感じて、**耐えて得られる達成感や真の喜びを得ることは出来ない**でしょう。

スポーツマンがひたすら最後の勝利を目指し、つらく厳しい練習に耐えているのはなぜでしょうか。人間は耐えて大きく強くなるのです。その時、生き甲斐ややり甲斐を感じずるものです。

**忍耐力を高める為には、まず現実を受け入れること**です。

「こういうこともある」「しかたがない」「この程度のつらさは当たり前」と考えられれば、つらさは軽く感じられるでしょう。

**次に「力を抜く」こと**です。

“忍耐”と言うと、「力を入れて耐える」イメージがありますが、「少し力を抜いてやり過ぎず」ことができれば、我慢できるでしょう。「こういうこともある。ある程度嫌な思いをするのはしかたがない。余計なことを考えずになんとかやり過ぎそう」と考えたほうが我慢しやすいでしょう。

一日に人間に  
与えられた時間は、  
二十四時間と決まっている。

どうでもいいことに時間を割けば、  
肝心のところが削られる。  
気力も削がれる。  
自分にとって、  
今は何が本当に必要なのか、  
よく考えてみることだ。

(マエストロ、あさのあつこ)

